

令和7年度 江戸川区立小岩第二中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで学び協力し合う生徒の育成 ・規律を守り責任を果たす生徒の育成 ・健康で思いやりのある生徒の育成 	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が、期待感をもって登校し、充実感をもって下校する学校 ・生徒が、将来に対する夢や希望を育てる学校 ・生徒が、社会人としての能力・態度を身に付けることができる学校
前年度までの本校の現状	成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ALTの活用を推進し、スピーキングテストの結果が前年度と比較して向上した。 ・体力テストにおいて、東京と平均を上回る生徒の数が増加した。 ・ボランティア活動への参加率が高まった。 	課題 <ul style="list-style-type: none"> ・学力調査におけるCD層の割合が多かった。 ・運動習慣の定着を更に図りたい。 ・ALTの授業以外での活用をより推進したい。 	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	ALTの更なる活用をした英語教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTによる授業以外での生徒にかかわる活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ESAT-JにおけるCD層の割合を、前年度比5%減らす。 	70%	95%	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTによる挨拶運動、屋の英会話、行事への参加、放課後のEnglish Clubを計画的に行った。 ・ESAT-Jは11月に実施予定である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTを様々な場面で活用している。ESAT-Jの結果に結びつけてほしい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・数値目標を大きく上回る結果となった。 ・1、2年生の江戸川区学力調査の結果も昨年度と比較し、大きく上回った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特色として英語教育が充実している。今後も継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTの活用をさらに発展させて、「躊躇なく英語を話す生徒」の育成を目指す。
	教員の授業力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の授業で、主体的・対話的な取組を行い、生徒の深い学びを実現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力調査で国語・数学のC・D層の割合を40%以下にする。 	30%	50%	C	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力調査におけるCD層の割合は、国48.9%、数45.4%と目標に届かなかった。学習習慣の確立が課題である。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣の確立をし、学力向上を図る授業の実施に期待する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・令和の日本型教育が浸透していない。 ・教科を横断しながら、学習意欲や学力を向上させる必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は学力が課題だと聞いている。そのための教員の授業力向上は不可欠だと思う。頑張してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修や研究授業を通して、互いの授業を評価し合う機会をつくり授業力を向上させる。
	〇読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> ・区立図書館との連携を深め、文献とPCを活用した探究的な学習を実施し、発表を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間に1度以上全学年でまとめ・発表までを実施する。 	90%	80%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣書店と連携し、生徒が作製した本の紹介POPを展示した。今後、調べ学習の場をより増やす。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣との連携を深めながら、今後も続けてほしい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・探究学習の充実を目標とした。昨年度と同程度の探求は行ったが、発展性が足りなかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・探究学習の成果が視覚的に観れると良い。発表の場を公開したらどうでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・探究学習については教員の理解が足りていない。あらためて、読書科の意味を伝えられたら良い。
体力向上	運動意欲や基礎体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業で毎回補助運動を行い、基礎体力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストで区平均を3ポイント以上上回る。 	70%	90%	B	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの結果は、2年女子は全国平均を上回った。1年男女、2年男子、3年男子は全国平均とほぼ同じだった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上を図る活動を適宜取り入れてほしい。 ・基礎体力の向上は、大切である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの結果は昨年度を上回った。特に2年女子の結果は全国の平均を上回った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・元々、元気な生徒が多いので、良い結果が出て嬉しい。引き続き頑張してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、体力を意識した手立てを考えていく。今年度できなかった「朝運動」も取り入れる。
	運動習慣の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・昼休みの運動を推奨し、運動習慣の確立をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の道具を充実し、年間2回の運動週間を設定する。 	80%	60%	B	<ul style="list-style-type: none"> ・縄跳びなどの運動器具を補充し、昼休みの運動の推奨している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びながら体力の向上を図れるといいと考えられる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・昼休みの道具は揃えたが、運動習慣は設定できなかったところが反省点である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・体力をつけるための、方法を考えていってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度できなかった「朝運動」や「運動習慣」を実現させる。
教育の推進 共生社会の実現に向けた	特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援委員会を中心に支援が必要な生徒への対応策を検討し、実行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援委員会を毎月2回以上行い、対応策を検討・実行する。 	90%	80%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援委員会を毎月2回以上開催し、外部との連携なども考慮し、具体的な対応策を検討している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年々増加する支援が必要な子どもへの支援を、引き続き行ってほしい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援研修を通して、教職員の理解が深まっている。 ・問題行動の背景を考えて指導するようになってきた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は巡回指導の先生がいる学校なので、対象の生徒が学校生活に適應できるようにしてあげてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常クラスにいる合理的配慮の必要な生徒への支援を個別支援計画に則り学校全体で支援していく。
	SDGsへの取組	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心にボランティア活動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸川土手清掃等地域のボランティア活動の機会を年5回以上つくる。 	90%	90%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域清掃、介助ボランティアなど、様々なボランティアへの参加を呼びかけ、どの活動にも、募集人数以上の生徒が参加している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの生徒が、積極的にボランティア活動に参加している。今後も継続してほしい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸川河川敷清掃には100名の生徒が参加した。 ・ユニセフ駅前募金には50名の生徒が参加した。SDGsへの意識は高まっている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も活発ボランティア活動を行ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き生徒会を中心に学校の特色としてボランティア活動を続ける。
	インクルーシブ教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・相互理解を深める人権教育を行うとともに、合理的配慮の実践をする。 ・ユニバーサルデザインを取り入れた教室環境整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権講話の年間1回実施と、相互理解の道徳授業を学期に1回は実施する。 ・学校アンケートの教室環境に関する項目の肯定的な割合で80%以上を目指す。 	70%	40%	B	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育としての講話を1学期に実施した。道徳の授業でも相互理解の授業を行っている。学校アンケートは、3学期に実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育は重要である。今後も計画的に実施してほしい。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・人権担当教員が受けた研修内容を学校全体に周知することができなかった。教員の人権感覚をさらに磨く必要がある。 ・ユニバーサルデザインを取り入れた環境整備についてもさらに整えていく必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育があまりよくわからないが、生徒の人権を意識した教育はきちんと推進してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な人権教育を見直す必要がある。 ・教室の学習環境が担任によって違うことがないように統一したマニュアルをつくる。

不登校・いじめ対応の充実	エンカレッジルームの活用促進	・エンカレッジルームを活用して、不登校対策を進める。	・エンカレッジルームの活用を通して登校する不登校生徒数を各学年5%以内に減少させる。	70%	70%	B	・エンカレッジルームの活用によって学校とつながっている生徒が増加した。	B	・不登校生徒数自体は減っていないが、不登校対策を今後も続けてほしい。	B	・エンカレッジルームの活用に関しては、支援員や不登校対応巡回指導員と連携して居場所として充実させることができた。 ・不登校生徒は減っていない。	B	・エンカレッジルームの環境は良いと思います。不登校生徒が減ると良いです。	・来年度の2、3年生の不登校生徒は5%程度出る。魅力ある学校を創り不登校生徒を増やさないことが課題である。
	関係諸機関との連携	・ステップサポーター・スクールカウンセラー・児童相談所・SSW等と連携して取り組む。	・関係諸機関とのつながりがない生徒をゼロにする。	95%	90%	A	・SSW、児童相談所、SCなど外部との連携をとり、つながりのない生徒はいない。	A	・今後も関係機関と連携して、つながりのない生徒をゼロを継続してほしい。	A	・繋がりのない生徒はゼロである。SC、SSW、行政機関との連携は取れている。	A	・今は、教員以外の方が生徒や家庭の支援をしていると聞いている。今後も学校と連携して支援して欲しい。	・外部機関との連携はそのまま継続する。今後は保護者への支援の充実を図りたい。
	いじめ防止の推進	・年間3回はいじめアンケートの実施といじめへの早期対応・早期解決を進める。	・いじめの未解決をゼロにする。	90%	90%	A	・いじめアンケートの実施により、件の報告があった。早期対応をすすめ、報告数のうち指導継続中は1件である。	A	・早期発見と早期対応をし、いじめ未解決ゼロを進めてほしい。	A	・いじめアンケートに書かれたことはすぐに対応した。 ・問題解決には保護者の理解を得ながら進めた。	B	・いじめの問題はどの学校でも課題だと思う。いじめが発生したときは早急に解決してもらいたい。	・いじめについて、教職員を対象に、法的な理解を図るための、研修が必要である。
学校（園）の地域社会に開かれたの実現	自校の取り組みの積極的な発信	・学校ホームページの充実とtetoruの活用の推進	保護者学校評価における「学校の情報を積極的に発信」の項目で90%以上を目指す。	70%	70%	B	・学校評価アンケートは、3学期に実施する。 ・ホームページの更新頻度は、週に3回程度であった。 ・tetoruを毎日活用している。	B	・ホームページの充実と、学校の情報を積極的に発信してほしい。	B	・校外学習や宿泊行事ではリアルタイムでホームページを更新して保護者に情報提供した。 ・tetoruを活用しこまめに情報発信を行った。	B	・ホームページで学校の様子がよく分かった。今後も継続してほしい。	・引き続き、学校の情報をこまめに発信する。 ・tetoruの有料版で個別にメール発信できるものがあると聞いた。来年度は試してみたい。
	小学校との連携教育の充実	小学生が本校を訪問する取組と本校教員が小学校を訪問する機会を作り、交流を深める。	小学校との年に2回の直接の交流を実施する。	80%	70%	A	・小学生向けの学校説明会を1学期に実施した。また、近隣3つの小学校と連携協議会を2学期に行った。	A	・近隣小学校との連携を継続的に実践してほしい。	B	・例年通りの小中連携を行った。6年生の児童には入学前に2回中学校を見る機会を与えている。	B	・中1ギャップ等言葉を耳にするのが、現実がどうなのかを知りたい。スムーズな橋渡しをしていただきたい。	・今後は教育課程の連携も必要ではないか、特に英語の引継ぎを強化したい。
教育の特色ある展開	ICT技術の活用	・デジタル教科書だけでなく、ICTツールなどを積極的に活用した授業を行う。	教員の80%以上が「授業で積極的にICTを活用」とする。	90%	70%	A	・80%以上の教員が、授業においてICTを活用している。	A	・これからも学習用端末を活用してほしい。	B	・どの教科でもICTを有効に活用して、効果を発揮している。一方で、教員のスキルの差が大きい。	B	タブレットを使った授業がどこまで進んだのかは良くわからないが、これからの生徒には必要なツールなので学校できちんと教えてほしい。	・教員の研修が不可欠である。計画的に研修を進める必要がある。
	部活動地域移行の推進	部活動の地域移行に向けて、外部指導員による指導を推進する。	区教育委員会や関連部署との連携を進め、年に3回の協議会を行う。	90%	90%	A	・部活動指導員や外部指導員を活用し、剣道部はモデル事業として地域の中学生対象の練習会を行っている。	A	・部活動地域移行のモデルとして継続してほしい。	A	・1年間、部活動地域連携モデル校として、部活動指導員と地域指導員による部活動運営を実施した。地域連携したときの学校の役割が見えてきた。	A	・近隣校との合同練習など、新たな取り組みをしている。今後は楽しみである。	・この取り組みを他の部活動にも波及させていけるとよい。
	ハワイ州ホノルル市の中学校との姉妹校交流	・Ewa Makai校と姉妹校としての交流を深める。	・Ewa Makai校との直接的な交流を学期に1度以上行う。	50%	90%	B	・1学期は、Ewa Makai校の校長先生が変わり、交流が一時中断したが、2学期以降に交流を再開する予定である。	B	・生徒同士の交流を深めてほしい。	A	・新しい校長先生と交流を始め、2回オンライン交流を行った。来年度には生徒が来校する。	A	・ホノルルの学校と交流していることは素晴らしい。途中で交流が途切れないようにしてほしい。	・来年度来校する、エハマカイミドルスクールの一行をどのように迎えるか検討する。